



図書館だより

9月号

令和4年 9月22日
横浜市立山田小学校
図書担当：渡邊雄貴
学校司書：村山浩子

図書館からおねがいがあります

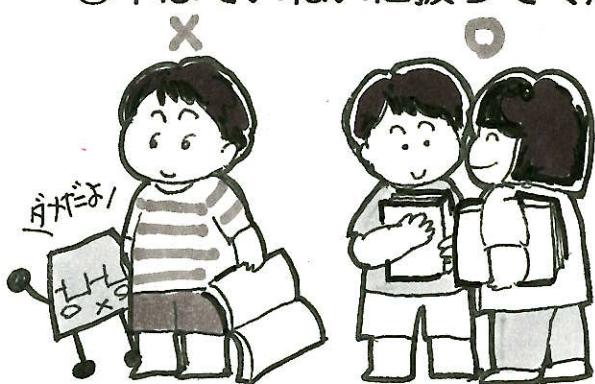
夏休み特別貸し出し期間に600冊もの本が借りされました。楽しんでもらえたでしょうか。さて、図書館からおねがいがあります。

①返す期限を守ってください

夏休み前に貸し出された本がまだ30冊ほど戻っていません。
「返してください」のお手紙をもらった人はなるべく早く返してください。なくして困っている人、返したのに手紙が来た人（機械の操作ミスの可能性もあります）は、まず先生に相談してください。そのままにしておかいでください。



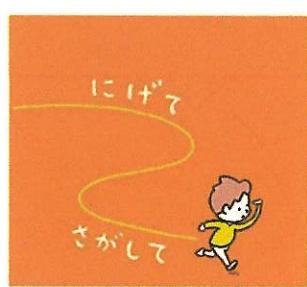
②本はていねいに扱ってください（なかでも図鑑）



どこの小学校でも図鑑（ずかん）は大人気。そして人気のある図鑑はたった一年でボロボロになってしまいます。愛されて、たくさん読まれているからしかたがないのですが…図書館でときおり見かけるらんぼうな図鑑のあつかいにドキドキすることがあります。『もち運ぶときはとじて運ぶ』『強く開かない』など少しの注意で本は長持ちするので、ぜひ大切にていねいにあつかってください。また背中がわれたりページがはずれたりした本があったら、はやめに修理するので教えてくださいね。

図書館利用状況 7月～8月分(17日間)※夏休みがない4日間、2冊貸し出しの6日間含む
来館者(休み時間) 766人 貸し出し数(授業中含む) 1058冊 【1日平均45人/62冊】

今月のおすすめの本 『にげてさがして』



にげるために、さがすために、
きみのあしは、ついている。

ヨシタケシンスケ 著
著者紹介

ヨシタケシンスケ 赤ちゃんとママ社

あるインタビューで、ヨシタケさんは「自信がない、楽しいこともない」という子ども時代をすごし、苦手なことからずっと「逃げる」ことで現在の仕事にたどりついた」と語っていました。でも、「逃げる」だけでなく自分らしくいられる場所やモノを一生けんめい「さがして」きたからこそ、いまのヨシタケさんがあるのでしょうか。つかれた時にちょっと心にしみる絵本です。(裏面にヨシタケシンスケ展特集があります。)

図書だよりはおうちのかたと一緒に読みましょう。

7月、世田谷文学館「ヨシタケシンスケ展かもしれない」に行きました。

ヨシタケシンスケ展かもしれない



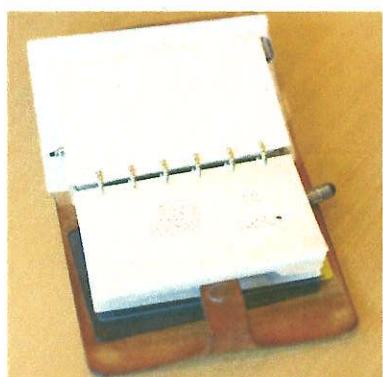
とてもおもしろかったのですが、今は西日本を回っていて当分関東地方にはもどってこないらしい…。なので、ほんのすこし内容を紹介します。

※①館内は写真OKでした。(ヘタで見づらくてすみません。)

※②内容を図書だよりにのせていいかどうか、主催者に確認したところ、「感想をそえて紹介してあげてください」と、こころよく許可をいただきました。

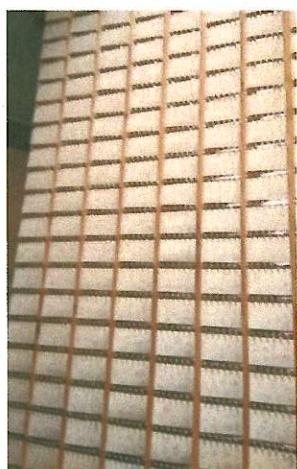
絵本作家ヨシタケシンスケさんができるまで

ヨシタケさんは自信のない子でしたが何かを作るのは上手だったので、小学校時代、将来は大工さんになろうと思っていたそうです。大学ではおもしろい立体作品を作っていました。はじめてモノをつくって楽しいと思ったとか。→



卒業後は、ゲーム会社のサラリーマンをやっていたのですが、うまくいかなかつたそうです。そのストレス解消に小さなメモ帳に「身の回りでみかけたおもしろいこと」をイラストに描いていきました。メモ帳の一部が展示されていましたが、とんでもないメモの量とびっくりするほどの絵のこまかに圧倒されました。

その積み重ねがやがて40才の時「りんごかもしれない」で人気絵本作家への道につながるわけです。



苦手なことは得意な人にまかせるのも悪くない！

ヨシタケさんには他の作家とちがうところがあります。小さな絵なので本にするときは拡大する、そして色をぬるのが苦手でほかのデザイナーさんに頼む、といった他にはない絵本作家さんだそうです。それでもこんなステキな絵本がつくれるなら、「苦手なものは得意な誰かにおねがいするのもアリかな」と思いました。

最後にヨシタケさんから子どもたちに向けたメッセージがありました。見づらくてすみません。よろしければ図書館向かい家庭科室のカベにまわってあるので見ていただけると嬉しいです。

